

7.環境報告書まとめ

本報告書は平成 28 年度に滋賀医科大学が取り組んだ環境や社会への行動を報告しています。

平成 27 年度と比較し、平成 28 年度は総エネルギー使用量の増加に伴い、エネルギー原単位・CO₂ 排出量等が増加しました。これは診療活動の活性化(MRI 装置の増加)やボイラーインバーター故障によるエネルギー消費量の増加・気象条件が厳しくなったことが考えられます。平成 29 年度にボイラーの修繕が計画されているため、これにより平成 30 年以降のガス消費量の削減によるエネルギー消費量および、温室効果ガスの排出量の削減が見込めます。

滋賀医科大学ではエネルギー消費原単位を前年度比 1%以上削減を継続するための具体的な計画づくりに着手しています。老朽化した設備を最新の省エネタイプに更新していくことを中心とし、ソフト面でも学生や教職員の省エネ活動をより活発にするような計画の作成をしています。

長期的な省エネ活動により漸近的に総エネルギー消費量の削減ができていますので、今後も省エネ活動を推進していきたいと思えます。